

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：歩行者行動	
日付：11月 1日（土曜日）セッション時間：15：00～16：30	
司会者名（所属）：内田 敬（大阪市立大学）	
討 議 内 容	セッション全体：3編の発表があったが、それらはそれぞれ回遊行動モデル、まちづくりの交通課題、避難挙動モデルを主題としており相互の関連性は低いいため個別に討議を行った。主たる論点を以下に示す。
	<p>（149）柳沢吉保（長野工業高等専門学校）： 中心市街地回遊範囲と回遊トリップ数選択モデルの構築 論点</p> <p>(1) 回遊行動に関する効用関数の定義の仕方、特に図3，式(1)において距離を説明変数として用いることの妥当性。</p> <p>(2) 行動観測データの妥当性 ゴールデンウィーク中&トランジットモール実験中という“特異”な状況における実態調査データでモデル推定を行うとバイアスを生じるのではないか？</p>
	<p>（150）加藤祐司（早稲田大学）： 自由が丘における歩行者天国の時間帯拡大に向けた課題に関する一考察 論点</p> <p>(1) 住民の意向は踏まえているのか。</p> <p>(2) まちの賑わいへの歩行者天国の寄与について慎重な判断が必要ではないか。</p> <p>(3) 合意形成の基礎資料とするのであれば、影響予測に、より客観性が必要ではないか。</p> <p>(4) 荷捌きへの対処方法について、現状把握を踏まえた予測や提言は出来ないか。</p>
	<p>（151）磯崎勝吾（北海道大学）： Social force model を用いた歩行者挙動の再現に関する研究 論点</p> <p>(1) グループのメンバー間引力を考慮した群衆行動モデル化の有用性・可能性。</p> <p>(2) 避難行動の再現・評価への適用へ向けて、現モデル（平常時を対象）を如何に拡張していくか - 重点を置くべき要因，再現性の評価指標，避難行動における“目的地”の取り扱い。</p>